



「ここは…!? さっきまで紅魔の里の地下施設にいたはずなのに…!」

「おおろ!? 急に違うところに来たろ!!」

「くっ…!! 先ほど地下施設でこめっこのうっかり発動させた魔道具の力のようですね…!!」



?

キッ

「おっと…抵抗は無駄です。ここに転送される時にあなた方の能力は全て封じられてますから。それに…」

「地獄!? もしやあなたは悪魔ですか!?!」

「!? どっ どなたですか?」

「これはこれは…随分と可愛らしい方々が転送されてきましたね。ようこそ地獄へ。」





「私の能力は時間停止。
あなた方はここに転送された時点で
既に詰んでいるのです。」

ズル...

「ふふふ...
私はあなた方のような可愛らしい人間が
絶頂する際に放つ感情を喰らう者。
この触手たちを使い、
その身体に地獄の快楽を
刻み込んであげましょう。」

ズズズ...



しゅる

しゅる

しゅる

「おお…なんと無垢な身体…!!
絶頂の感情は、無垢であればあるほど
雑味が無く、澄んだ味わいとなる…!!
それを一度に三人も味わえるとは…!!
このような機会は数百年に一度
巡り合えるかどうかというもの…!!」



「さあ、触手から分泌される媚薬を
敏感な部分にしつかりと
塗り込んであげましょう。
人間には少々刺激が強いですが、
早々に壊れないよう
頑張ってくださいね。」



ド
ロオ

ド
ロオ……

ド
ロ……

「ではそろそろ停止を解除しましょうか。
時間が動き出せば停止中に蓄積した快感が
一度に押し寄せることになります。
はたしてあなた方はどれほどの感情を
味合わせてくれるでしょうか？」





「えっ……あれ……?」

「? なにこれ?」

「一体何が……あつ?」





はうわん!?

ふあ!?

あゝ!?

がが

がが

グミヤ

がが

グミヤ

グミヤ



あああ

がらっ

がらあ

とまって...
とまって...

びびび

びびび

びび

がが

「素晴らしい...!!
絶頂の感情はそれが激しければ
激しいほど美味になるが...
これほどのものは今まで
味わったことが無い...!!
もつと...もつとだ...!!」

がが

がが





「さあ、ここからがメインディッシュです……！
より甘美な感情を発するため、
その身の限界まで快感を
溜め込むのです！
何度絶頂してもしきれぬ程にね！」

ずりゅうっ

ぐっ
ずっ
ずっ

ずっ
ずっ

ぐっ
ずっ

ずっ
ずっ



グ
チ
ャ
♡

ズ
チ
ャ
♡

ハ
チ
ャ
♡

ク
チ
ャ
♡

ズ
チ
ャ
♡

ズ
チ
ャ
♡

ズ
チ
ャ
♡

ズ
チ
ャ
♡

ズ
チ
ャ
♡

ズ
チ
ャ
♡

ズ
チ
ャ
♡

ズ
チ
ャ
♡

ズ
チ
ャ
♡

ク
チ
ャ
♡

ク
チ
ャ
♡

ズ
チ
ャ
♡

ハ
チ
ャ
♡

グ
チ
ャ
♡







「ふう…堪能しました…!!
これほどの満足感は初めてですよ…!!
しかもこれからはいつでも
これを味わえるとは…。
ククク…胸が躍りますね!」





































